

【一】

問一 「忘れること」をどう考えるかは、出題文のテーマである。直前の一文に「忘れることに恐怖心をいだき続けている」とあるので、解答はすぐに思い浮かぶ。書き出しから続く文脈が分かなければならない。

問二 「学校が」という主語が「教室は」に置き換わっているが、直後の文に学校(教室)が、「忘れるな」「よく覚えろ」と命じる理由が述べられている。その部分を問題の誘導に従って、二十字以内にまとめる。「知識を与えること」と「増やすこと」の二点が必要。「抜き出して」の指示がないときに、本文をそのまま抜き書きしてはいけない。

問三 **C**の段落では「人間の頭脳」を「倉庫」に見立てている。「倉庫」に蓄積するものは「知識」である。それを**D**の段落で、その蓄積したものの(知識)の「在庫検査をして、なくなっていないかどうかをチェックする。それがテストである」と述べている。

問四 「生き字引」という言葉の意味を問う問題。文脈から判断することも出来る。

問五 「合言葉」は本来「仲間同士を確認するための合図となる言葉」のことであるが、ここでは、皆がそろって「忘れるな」「忘れるな」と言うことをこのように表現している。

問六 問三と同様に、Cの段落に、「人間の頭脳」を「倉庫」に見立てて、「知識をどんどん蓄積する」と出てくる。傍線部⑦の直後に、二つの整理のことが書かれている。その部分を利用して三十五字以内にまとめる。採点の基準は、「順序よく並べる整理」と「不要なものを取り除く整理」の二点が区別されているか。「そろえる」「いらぬもの」「捨てる」などの言葉を使ってもよい。本文をそのまま抜き出さないこと。

問八 出題文の本論である「忘却(忘れること)の必要性」に関する問題である。「人間の頭」を「工場」として見たとき、「工場」には「能率」をあげるために、「作業」を行うためのスペースが必要である。そのスペースを作ることが、人間の頭で言えば、「忘却」である。傍線部⑧の四段落前「人間の頭は」で始まる部分から、このことが論じられている。

問九 前問同様、傍線部⑧の四段落前「人間の頭は」で始まる段落の読解が必要。この中で「人間の頭はこれからも、一部は倉庫の役をはたし続けなくてはならない」としながらも「新しいことを考え出す工場でなくてはならない」と述べている。

問十 「忘れてはいけない」と言われ続けてきた筆者にとって、「忘れることの必要性」に気づいたいま、「忘れてはいけない」という考えは偏見(偏った見方)になる。

問十一 修飾される部分(被修飾部分)とは修飾語が直接かかってくる語(または部分)、「どんどん」↓「入ってきて」とかかってくる。

問十二 「レム(REM)睡眠」のことを述べている段落の一つ前の段落に「人間は、自然に、頭の中を整理して、忙しくならないようになっていく」とある。また、一つ後の段落には「気分爽快であるのは、夜の間に、頭の中がきれいに整理されて、広々している」とある。さらに、傍線部⑫のあとには「頭の工場の中がよく整頓されて、動きやすくなっている」とある。そのどの部分を用いてもよい。人間は寝ている間に頭の中を整理して、思考する場を広げ、思考する環境を整えているのである。

問十三 意識的に忘れるのではなく、睡眠により自然に忘れてしまうこと(自然忘却)を、このように表現している。

問十四 頭の中の工場にとってじやまなものを整理することは、まさに「頭の掃除」である。

問十五 傍線部⑮の三行前に「いまの人間は、情報過多と言われる社会に生きている。どうしても unnecessaryなものが、頭にたまりやすい」とある。「過多」とは「多過ぎる」という意味。

問十六 直前の段落「忘れる努力が求められるようになる」を指している。「自然忘却」だけでは、頭の中の整理は追いつかなくなっているという文脈をとらえられていれば解答できる。

問十七 傍線部⑰の二つ後の段落に「忘れるのは価値観にもとづいて忘れる」と述べている。

問十八 「つまり」は説明の接続詞。言い換えたりするときにも用いる。「ところが」は逆接の接続詞。前で述べたことと逆の展開、異なる展開が続くときに用いられる。

【二】

問一 慣用句には体の一部分を含んだものが多い。やはり日頃から言葉に対する関心を持つことが大切。

問二 ことわざそのものだけでなく、それぞれ意味も知っておくとよい。

問三 漢字は単なる記号ではなく、それぞれ意味を持っている(表意文字)。漢字の学習は、それぞれの漢字が持っている意味も含めて学習するように心がける。